

堀 雄一 氏の学位審査結果の要旨

主査：関本 貢嗣

副査：小林 拓也、上野 博夫

膵管内乳頭粘液性腫瘍 (intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas) は low grade dysplasia, high grade dysplasia, invasive carcinoma と段階的に悪性化することが知られている。癌化率は高くないが癌化すると予後不良であり、癌化する前に外科的切除を行うことが必要とされる。そのため現在は IPMN が発見された場合には定期的に CT などの画像検査を行うことが推奨されているが、これらを長期に頻回に行うのは医療経済的にも患者にも負担となる。より簡便なマーカーの開発が求められる。

本研究では、IPMN が悪性化する課程で pSmad3C の陽性細胞が減少し pSmad3L の陽性細胞が増加することを免疫組織学的に明らかにした。さらに pSmad3L の発現が Ki67 の発現や IPMN の外科的切除後の再発率と相関することを示した。これらのことから pSmad3C/pSmad3L が IPMN の悪性度診断に有効であることが明らかとなった。

本研究は、研究手法においても、明確な結果を示し得た点でも、医学的価値においても、学位授与に値すると判断する。